

原 三千代（はら・みちよ）

1、プロフィール

川崎むつを（口語歌人）との結婚を機に原三千代も一貫して口語歌を作りつづけてきた。晩年はパーキンソン病を患いながらも多くの歌集を出版するなど歌作への情熱が絶えることがなかった。

<生没>

1913(大正2)年9月 13 日～2009(平成 21)年2月 10 日

<代表作>

歌集『ゆきあかり』『毀れたシャーレ』『セピヤ色の別れ』『紫苑』

合同歌文集『波止場』遺歌集『なごりの雪』

<青森との関わり>

川崎ミツエ(筆名、原三千代)は大正2年、山梨県武川村に生まれた。昭和22年より青森市に居住。

2、作家解説

大正2年9月 13 日、山梨県北巨摩郡武川村に生まれる。本名、川崎ミツエ。

東京女子学院、実践国文科卒業。在学中から作歌を始める。昭和6年、石原純らの「短歌創造」に参加。明治文学研究会や短歌会で川崎むつをを知り昭和12年結婚。13年、川崎とともに大連に渡り女学校教師、「女性満州」編集。戦後、引き上げ、明の星、筒井中の教師など、この間「芸術と自由」「新短歌」に参加。オリオン社「出帆旗」満州新短歌協会「短歌開拓」、波止場の会「波止場」に協力。歌集『ゆきあかり』『毀れたシャーレ』『セピヤ色の別れ』『紫苑』。新短歌人連盟賞受賞。平成14年5月13日、遺歌集『なごりの雪』出版。

平成12年より、川崎とともに三思園に入園した。

15年1月1日、「連れ添って66年」のタイトルで、東奥日報朝刊に川崎むつをと原三千代の特集記事が載る。

3、資料紹介

○遺歌集『なごりの雪』

図書

2002(平成 14)年5月 13 日

188mm×155mm

生前刊行の遺歌集。巻末の文章で作者は次のように述べている。「私は最後の歌集「紫苑」をもって終えようとした、がその後の作品が加わり、(略)晩年の記録として一部抜すいを残す決心をさせた。(略)今までのネオリアリズムだけでは堅くしいので、叙情的な作品をあつめてみた。詩歌の本来性はゆるやかな叙情性にあると思っている。」と。